



Flash News

〈フラッシュニュース〉

目次

- チーム制の導入
- 河南省および鄭州大学を訪問
- 学長が1日郵便局長に
- 新監事ご紹介
- 「附属病院基本設計業者の特定！」
- 工学研究科に「社会連携講座」創設される
- 「平成17年度三重大学教育G P 成果報告会」
- 地域中小企業問題解決型M O T (Management of Technology)教育プログラム 修了式
- 第3回天津師範大学短期語学研修&文化交流
- 平成18年度新任教員研修

お知らせ

・附属図書館から

チーム制の導入



職員向け説明会の様子 (4/5)

本年4月から本学の事務組織（附属病院を除く）にチーム制が導入されました。これまでの課・係制がタテ型の事務体制であるのに対し、チーム制は、当該チーム全体の業務を整理・分類し、職員をスタッフとして配置することにより、仕事を効率的に進めていくというヨコ型の体制です。また、チーム制の円滑運用のため、中間管理職をできる限り廃止し、事務組織のフラット化を併せて実施したので、組織編成の柔軟化や迅速な意志決定等が可能となり、事務処理体制の強化が図られています。

河南省および鄭州大学を訪問

3月27日-29日にかけて本学（亀岡孝治副学長、小林英雄教授・工学部、齋藤昌弘教授、松村直人教授・生物資源学部）と三重県日中友好協会松野氏の一行が鄭州大学を訪問し、学術交流協定締結を前提とした覚書の調印を行うなど一連の活動を行いました。一行はまず、同校環境工学部を訪問し本学の生物資源学部との環境科学交流について意見交換ののち、小林教授は同情報工学部を訪問し「日本における無線通信システムの現状と将来動向」と題する招待講演を行うと共に、今後の学術交流に向けた意見交換を行いました。また、齋藤、松村両教授は三重県日中友好協会が2000年から鄭州市郊外で行っている緑化事業現場と河南省林業科学研究院を訪れ、環境科学交流に向けた視察をしました。最後に、太陽化学工業の関連会社である開封太陽金明食品会社を訪問し、国際インターンシップ制度の導入に向けた検討を進めることが確認されました。



鄭州大学 Zheng Yuling副学長 亀岡副学長

学長が1日郵便局長に



写真左から 津中央郵便局 近藤勝吉副局長、パスカルさん、豊田学長、同局 山本一仁局長

4月21日、津中央郵便局において第73回郵政記念日（20日）の式典が開催され、豊田学長が1日郵便局長に、また、ナウディート・パスカルさん（留学生（独）・人文学部）は1日郵便局員として同局山本郵便局長から委嘱状を受けました。学長は、同式典でこの日表彰された優秀局員らを前に法人化した三重大学の取り組みを紹介し、「顧客第一の局づくりを進め改革に挑戦してほしい」と来年民営化を迎える局員へエールを送りました。その後、局内の業務を見学したり、訪れた利用者に花の苗をプレゼントするなど郵便局のPR活動をしました。

新監事ご紹介

4月1日より新しく監事に就任された田中監事よりご挨拶をいただきました。「長い間、民間企業で勤務してまいりました。もともと技術畑でしたが、ここ15年程は、監査業務や会社の経営に携わってきました。昨今、民間企業でも監査機能を強化しておられます。大学も法人化されて3年目、三重大学が信頼される大学に、また、より効率的かつ機能的な経営を目指し、少しでも役立てたらと思っています。」

今後、同氏には本学のさらなる発展へ向けてご指導をお願いいたします。



田中義三監事

「附属病院基本設計業者の特定！」

医学部附属病院基本設計業務の委託について1月に手続き開始の公示を行いました。3月14日まで受付を行い、技術提案書を提出した12業者に対して、一業者ごとにヒアリングをしました。引き続き建設コンサルタント選定委員会を開催し、厳正なる審議の末、最高の評価を得た「岡田新一・建築設備設計研究所設計共同体」に特定しました。同業務は、附属病院再開整備に伴う、病棟、診療棟、外来棟の3棟からなる延べ面積約64,200㎡を整備する基本設計で、履行期限は平成19年3月となっています。なお、各業者の技術提案書、評価結果は総合研究棟Ⅱ 2階ホールにおいて4月3日～7日まで公開していました。

工学研究科に「社会連携講座」創設される

昨年5月に包括協定を締結した㈱オートネットワーク技術研究所との間で社会連携講座創設の機運が高まり、本年度より工学研究科に社会連携講座「車載ネットワーク技術研究室」(飯田和生教授、斎藤 寧招聘助教授)が設置されました。4月3日には、豊田学長、森野理事、千葉 一彰社長、池田 博榮顧問および多数の関係者が集い、新生研究室の看板上掲式と開所式が挙行されました。今後5年間にわたり産学間の協同による「コンタクト理論」の世界拠点化を目指します。本学として初めて設置したこの講座は、今後の研究と教育の活動を通して産学連携のあるべき姿を明示し、地域社会へ貢献することを目指してベストを尽くします。ご期待ください。



「平成17年度三重大学教育G P 成果報告会」



3月28日、「平成17年度三重大学教育G P 成果報告会」(平成17年度三重大学教育G Pの採択結果 <http://www.mie-u.ac.jp/gakunai/news/eduGP17.htm>=フラッシュニュース28号参照)を共通教育校舎2階PBL演習室で開催しました。この三重大学教育G P事業は、学内のさまざまな創意にあふれた特色ある教育の取り組みを選定し支援することによって、本学の教育の活性化を図ることを目的としています。この報告会では、昨年度採択されたプログラムについてプレゼンテーションと質疑応答が行われ、その取り組み状況と事業成果について、活発な意見交換が行われました。

地域中小企業問題解決型MOT(Management of Technology)教育プログラム」修了式

県内の中小企業の方々を対象として昨年10月～本年2月に開講した標記教育プログラム(フラッシュニュース第31号参照)の修了式が3月30日三翠会館において執り行われました。「MOT」実証講義は経済産業省による「平成17年度技術経営人材育成プログラム導入促進事業」の採択を受けたもので「戦略的企業提携・進化論」をはじめ8科目の講義が行われ、中小製造業・ベンチャー企業の経営者や一般企業の管理職等幅広い社会人が受講し、最終的に54名の方に修了証書を授与することになりました。式には、修了者19名が出席し、豊田学長より、一人一人に修了証書が授与されました。続いて行われた交流会では、豊田学長、森野、山田両理事、講義を担当した先生方を囲んで、大学と企業との連携に関して熱い議論が交わされました。



第3回天津師範大学短期語学研修&文化交流



3月5日～19日の15日間、標記研修(団長:別府直苗講師・教育学部、参加者:全学学生17名)が実施されました。午前中は中国語学習、午後は文化交流に、北京小旅行や市内参観等も行われ、参加学生は中国の古い歴史と新しい文化を肌で感じ、中国語にどっぷりつかった研修となりました。

平成18年度新任教員研修

4月19日、メディアホールにおいて「新任教員研修」が開催されました(附属病院教員および附属学校教諭を除く)。研修では、学長の講話から始まり、各理事、高等教育創造開発センター副センター長:津田 司教授・医学系研究科や奥村晴彦教授・教育学部、狩野幹人助手・知的財産統括室、下田総務部長ら講師陣が、三重大学の教員として必要な事柄について説明し、参加した新任教員は熱心に聞き入っていました。

お知らせ

附属図書館から

附属図書館では、新入生Welcomeキャンペーンの一環で、日本各地から入学された学生の皆さまの故郷・文化を再発見していただくきっかけとして、一階のミニ展示コーナーに地域文化や県民性に関係する本を展示しています。詳しくは附属図書館広報誌「学塔」をご参照下さい。「学塔」は図書館で配布しているほか、Web上でも公開しております。また、展示コーナーでは各学部の教員推薦図書も展示しております。 URL : <http://www.lib.mie-u.ac.jp> HPトップ>広報>図書館報「学塔」on Web



投稿のお願い

各種事項(大学教育・研究、地域連携、国際交流、学内事業等)に関するフレッシュなニュース提供をお待ちしています。亀岡孝治(vpre-info@mie-u.ac.jp)または井上真理子(mariko-i@ab.mie-u.ac.jp)まで。場合によっては、取材に向きます。《フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページで(<http://www.mie-u.ac.jp>)ご覧いただけます。》編集責任者/理事・副学長 渡邊悌爾